

健診の内容・料金

問合せ 健診専用電話 ☎026
 集団健診・人間ドック 受け付け中
 個別健診・みなし健診 各医療機関にお問い合わせください

項目	対象者・内容	自己負担額	
		集団健診	個別健診
特定健診	対象者 40～74歳の廿日市市国民健康保険加入者 内容 身体測定、検尿、問診、血圧、心電図、採血（血糖・貧血など）、眼底検査（集団健診のみ）	無料	
後期高齢者健診	対象者 後期高齢者医療保険加入者（受診日に満75歳以上の者。また、65～74歳の人で「後期高齢者医療被保険者証」を持っている人） 内容 身体測定、検尿、問診、血圧、心電図、採血（血糖・貧血など）、眼底検査（集団健診のみ）	市民税課税世帯 1,000円	
		市民税非課税世帯 400円	
C型・B型肝炎ウイルス検査	対象者 40歳以上の人で今まで一度も市の肝炎検査を受けたことがない人 内容 採血	900円	
胃がん検診	対象者 40歳以上の人 内容 問診、バリウムによる胃部X線撮影	2,200円	
肺がん（結核）検診	対象者 40歳以上の人 内容 問診、胸部X線撮影	600円	
大腸がん検診	対象者 40歳以上の人 内容 問診、2日分の検便検査	500円	
乳がん検診	対象者 40～49歳の女性（平成27年4月1日現在で偶数年齢の人） 内容 問診、視触診 マンモグラフィ（2方向） 対象者 50歳以上の女性（平成27年4月1日現在で偶数年齢の人） 内容 問診、視触診 マンモグラフィ（1方向）	2,200円	2,300円
		2,000円	
子宮頸がん検診	対象者 20歳以上の女性（平成27年4月1日現在で偶数年齢の人） 内容 問診、内診、視診、細胞診	1,400円	2,100円

※特定健診を受けるには、集団健診、医療機関での個別健診、人間ドック、みなし健診の方法があります。いずれか一つを選んで受診してください
 ※市民税非課税世帯の人（平成26年度課税状況）は、がん検診、C型・B型肝炎ウイルス検査が無料。生活保護世帯の人は、集団健診のみ受診可（無料）

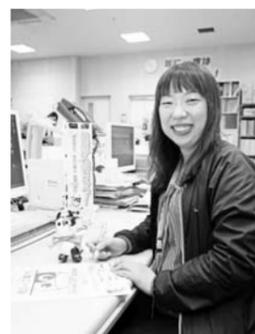


市有施設の受動喫煙防止に取組みます

広島県では、「広島県がん対策推進条例」を制定し、県民の死亡原因の第1位であるがん対策を総合的に推進するため、がん予防の推進や受動喫煙の防止などに取り組んでいます。

廿日市市では、「市有施設の受動喫煙防止に関する指針」を作成し、平成27年10月1日から多くの市民が利用する公園や市民センターなどで敷地内禁煙または建物内禁煙などの受動喫煙防止策を講じ、快適な施設環境・市民の健康の保持・増進を図ることとしました。ご理解とご協力をお願いします。

健診の詳細は、「健診のご案内」をご覧ください



健康推進課 保健師
井上 陽子
(いのうえ・ようこ)

保健師に聞く

1年に1回、健診を受けましょう

取材をさせていただいた中田さんが「健診を受けて命拾いをした。健診に行ったらよかったからよかった」と元気に笑顔で話され、嬉しくなりました。

廿日市市では特定健診、後期高齢者健診、がん検診を実施しています。

健診の目的は病気の早期発見です。健診で見つかるのも怖いですが、身体に症状が出てからでは、病気の重症化や治療の長期化、生活に制限がでることがあります。な

にも症状がないときに健診で発見できることによって、治療期間が短くなったり、治療後の生活制限もなく過ごすこともできることが多いです。

早期のがんは、ほとんど自覚症状がありません。ですから、定期的に1年に1回は、がん検診などを受けて自分の体をチェックしましょう。年に1度、自分の身体を見つめ、いつまでも笑顔で生活してもらいたいと私たちは願っています。



中田東洋夫さん(72)
みどりさん(68)・栗栖

健診を受けたことでがんの早期発見ができた中田東洋夫さん・みどりさんにお話を伺いました。

今、笑い合える幸せ

心身の健康 定期健診

症状が出てからでは遅かった。早くに発見できたことで、今の生活があります。

廿日市市でがんにかかった人 年間約1,000人（平成23年度）

「健診結果を見たときは、お互い驚きました」と話すのは中田みどりさん。5年前、夫の東洋夫さんの勧めで会社の健診を受けたときに、胃がんが見つかったのです。

東洋夫さんも2年前、市の健診を受けたときに腎臓がんが見つかりました。みどりさんの経験が、健診を受けることにつながったのです。

「幸い、お互いに早期に発見できたため、すぐに腫瘍の摘出手術を受けることができ、入院の期間も短くて済みました。今は薬を飲むこともありませんと東洋夫さん。」

「精密検査後、医師からは『症状が出てからでは、遅かった。早くに発見できたので、摘出する箇所も少なくて済む』と言われました。当時、私の体にはまったく異常がなく、病気になるってという自覚は、全くありませんでした。医師からの指摘を受けて、身に染みて健診の大切さが分かりました」と東洋夫さんは言います。

「お互いが健康でなければ、今の生活はありません。今の健康を維持するために、普段から家の中に閉じこもらず、いつも出掛けることや畑仕事をすることを心掛けています」と笑ってみどりさんは話します。

また、ウオーキング大会や健康体操などがあるときには、2人で積極的に参加しています。

「市や会社の健診を受けるのは、時間や手間が取られることかもしれませんが、病気に罹らなければ、それ以上に費用と時間が掛かります。今後も健診は毎年欠かさず行くつもりです。」と2人は口を揃えて、話してくれました。

平成27年3月26日に発表された国立がん研究センターの報告によると全国のがん罹患者数（平成23年度）は、男性が49万6304人、女性が35万5233人、合計85万1537人でした。

日本人の死因第1位のがん。国民病ともいわれるようになりましたが、健診を受けることで、早期発見・早期治療につながります。